

第1回会議後に出された意見 (徳島市まちづくり総合ビジョン策定市民会議)

意見の概要

観光は経済施策であり、観光案内所は、徳島市を始め徳島県における観光客の消費行動につなげる大切な施設である。その為、現在全国の殆どの県庁所在地には観光客が利用しやすい場所にしっかりとした観光案内所があるが、徳島にはまだ無い。県市協調で、交通事業者や観光関連事業者も巻き込んだグループで検討し、県庁所在地に相応しい観光案内所を設置すべきである。

観光案内所で扱う情報としては徳島市に限らず徳島県全域を始め、神戸、大阪、高松、和歌山など交通機関がつながっている他地域と相互に送客しあう連携機能を拡充する事で、域内でのHUB機能が強化され徳島県での経済効果はより高まると考えられる。

また、観光案内所のメインコンテンツに、世界中で認知度の高い遍路（札所、宿泊施設、トレイル（旧遍路道）、歴史・文化など）のプラットフォーム機能を備えることで、徳島県の存在感の向上とともに、県内の経済効果を高める着地型旅行商品の販売促進を推進することが可能となる。

慢性腎不全で亡くなる人が多く、透析患者も全国一位となっている。がん死亡率は高くないものの、がん検診率は低く、大腸がんは全国ワースト、胃がんは全国ワースト2位が続いている。徳島県全体の話ではあるが、とにかく健康に関する「行動」が正しくないことが特徴で、非常に残念である。これは子供も大人ももっと運動する機会を増やすことで解決できることである。また、健康リテラシー（特に食育と禁煙）も推進して欲しい。